

文部科学省指定

高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究

～Will Project におけるキャリア教育の取組～

平成21年度

実施報告書

(3年次)



秋田県立能代高等学校



も く じ

1. 校長あいさつ（巻頭言）	1
2. Will Project におけるキャリア教育の取組	2
3. 将来構想 基本方針と今後の取組について（まとめ）	4
4. 具体的な取組	
1) 社会人講話	6
2) インターンシップ	8
3) スクールマナー集会	10
4) 職業研究・学部学科研究	11
5) 大学出前講座	12
6) ライフプラン	13
7) Willプラン	14
5. この一年を振り返って～成果と課題～	15
6. 三年間の取組を振り返って	16
7. Will Project 構造図	20
8. アドバイザーの紹介とコメント	21
9. 来年度の計画	22





巻頭言

校長 山本 達行

「大きな夢と高い志を持ち、自己の可能性に挑戦する気概を持った生徒」の育成をめざし、平成19年度から始めた **Will Project** も3年目を終えようとしている。本来、このプロジェクトは、能代高校の将来構想として立案・検討され、実施に移されてきたものである。私たちは、能代高校が地域の様々な教育課題とニーズに対応しつつ、生徒の心と体と学ぶ力を鍛え、多様な能力を最大限に伸ばし、各分野のリーダーを育てる学校として発展すべきだと考えた。この思いをどう実現していくか検討する中で、私たちはキャリア教育と出会い、その手法と経験を取り入れながら本校なりの体系化を試みてきた。それまで行ってき進路学習の見直しと再編に加え、新たに取り組むべきことも多く、1年目は計画の実施そのものに多忙を極めたという。しかし、この1年間で、生徒にも職員にも取組のイメージと狙いが少しずつ浸透していき、現在ではほとんどの活動を学年担当者で実施できる状態になっている。そして、私たちがこのプロジェクトを始めた年に入学した生徒、いわば **Will Project** 一期生がこの3月に卒業する。従って、この卒業生の成長と実績が、本プロジェクトの評価を決めるものとなる。こうした認識から、私たちは、生徒の成長を「自己効力感アンケート」に現れる生徒の意識変化と、私たちが感ずる「望ましい変容」から判断することとし、この3年間の成果と課題を洗い出してみた。詳細については、この報告書の該当頁を見ていただくことにし、ここではその概略を述べるにとどめる。

私たちは、アンケート調査を基に、生徒の成長を「学習、進路、生活」の3分野の「これはできそうだという自信度」から捉えようとしている。この観点から3年間の推移を見たとき、卒業生全体としては3分野のほとんど全ての項目で自信を深めており、目標に向かって課題の解決を図ろうとする、意欲的で自立した人間として成長しようとする姿が明らかになった。しかし、個人差の大きい項目や、ほとんど変化の見られない項目もあった。また、1年次から2年次の変化は小さく、2年次から3年次の変化が大きいなどの特徴が見いだされた。特に生活分野では、前年比で負の項目もあり「中だるみ」の2年生の姿がデータで裏付けされている。3年になって大きく飛躍しているだけに、2年次の過ごさせ方や指導内容が、本校にとって大きな課題であることがわかった。

また、「覚えることや理解することは得意」であるが、「自分で決めて行動することや学んだ事を活用することが不得意」な生徒が多く、「確かな学力」作りをめざす学習指導の改善が進んでいないことも明らかになった。これらは、「受け身の姿勢からの脱却」めざして、**Will Project** でも様々な取組を行ってきたものであるが未だ解決していないことを示している。学びの姿勢をいかに「主体的」なものに変えていくか、その具体的手法を実践的に作り上げていかなければならない。教員にとって古くて重いテーマが、再び私たちの前に現れたといえる。

目標の一つであった「主体的に学び活動する生徒」には未だ至らず、解決すべき課題も多いことから、プロジェクトの成果を否定的に捉える人たちもいる。しかし、私は、目標に至る課題がデータを伴って明確になったことは、理想に一步近づいたことと認識している。そして、私たちが勇気づけるデータも明らかになっている。それは、私たちが力を入れて取り組んだ内容に関しては概ねしっかりと受け止められ、生徒の意識の向上や自信につながっている事実である。私たちが取組の精度を上げ、しっかりと生徒に向き合えば、課題の多くは解決できると考えている。

最後に、このプロジェクトを推進するにあたり、非常に多くの方々からご支援をいただいていた。特に、リクルートワークス研究所主任研究員・辰巳哲子氏には、本プロジェクト立ち上げ当初からご指導いただき、能代高校におけるキャリア教育のあり方について貴重な提言をいただいていた。今回の研究指定の成果を、本来の将来構想の実現につなげるからこそ、これまでのご協力に報いる道と考えている。私たちは、改めて「夢と志を育てる学校作り」を目指し、より精度の高い取組に挑戦して行くことを決意した。



Will Project における キャリア教育の取組

1 Will Project について

Will Project は、平成18年度に本校の将来構想委員会が策定した。(基本方針等については p.4 に掲載した。経緯は1年次の報告書で述べた。)

我々は、生徒の「夢と志をはぐくむ」ためには、「自他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高める」必要があると考え、キャリア教育的な手法を用いて実現しようとした。平成19年6月、文部科学省から「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究推進校」の指定を受け、今年が3年目の完結の年である。

2 研究課題及び研究内容

上記の計画書において設定した研究課題及び研究内容は次の通りである。

「自他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高める指導方法の充実」を研究課題として①②③に示す調査研究を行う

- ① キャリア教育の在り方に関する効果的な指導内容・指導方法の充実・改善
- ② キャリア教育の専門的知識を有する外部人材の活用及びその活用の在り方
- ③ その他

①に関しては、Will Project の具体的な取組の項目「Ⅱ 自他を知り、社会を知ること、学びの

意欲を高めるために」として計画したことを展開していくなかで、より効果的な指導内容・指導方法を模索しながら実施し、実施後の反省をもとに更に改善して次年度の計画を作成することと捉えて進めてきた。

2年次では、進路指導部を「進路班」と「Will 班」の2班に編制し、各学年の担当によって構成された「Will 班」が「総合的な学習の時間」に計画されていた各取組の企画と事前準備、当日の指導内容や事後処理の方法を明確にしていく任務を担うことになった。これにより、「Will Project 推進委員会」は、Will Project 全体の検討を進めるという本来の任務に戻ることもとなった。

3年次では、進路指導部の体制を「進路班」と「キャリア班」の2班にした。後者は昨年度の「Will 班」の名称を変えたものである。Will Project におけるキャリア教育分野担当という位置づけを明確にした。これで総合的な学習の時間の企画運営を円滑に行うことができた。また、進路班の計画との違いや関連性も把握でき、互いの補完を強めることができた。

指導内容は概ね前年度の内容を踏襲し、特に昨年度の内容を変更することなく、その実施にあたった。(具体的な取組事例は、p.6以降に掲載している。)

これまで、教員も生徒も取組相互の関連性がよく理解できていないという反省があり、指導方法の改善の方向として、2年次に「総合的な学習の時間」のテキストづくりが話題になった。他校の

テキストを参考にするなどして検討はしたが、完成したテキストとして提供するための時間的な余裕はなかった。そこで、3年間の各取組のねらいと相互の関連性が把握できるように構成しなおしたワークシートを一括し、ファイルとして、一年生全員に配付した。

その構成は、最初に**Will Project**のねらいと**Will Project**の3年間のステップおよび学習指導計画(シラバス)があり、その後に「総合的な学習の時間」で使用するワークシートや資料が綴じ込まれているものである。

これによって、教師も生徒も個々の取組と教科および学年のねらいとの関連性が把握しやすいものとなった。また、**Will Project**全体の構造図も作成し、取組の全体像をわかりやすく示した。

②に述べている「キャリア教育の専門的知識を有する外部人材」とは、社会人講話の講師、大学研究などに関連した教授等、進路講話・講演会の講師、研究推進のためのアドバイザーを含めて考えている。

今年度は講師の人選にあたって、慎重に本校の人的財産の掘り起こしに力を入れた。たとえば、東京同窓会役員会に出席し、各企業で活躍している方を講師に招く「社会人講話④」の講師依頼をお願いした。その結果、今年も各界で活躍する本校の同窓生を招くことができた。また、「社会人講話②」でも、本校OBの方の紹介により国際的に活躍している方を招聘することができた。このように、今年度は、講師の人選に関するネットワークが形成されてきたと考える。

研究推進のためのアドバイザーは、p.21に紹介している。今年度は3年間の総括をどのように行うか、また、次年度に向けた発展的な改善のポイントの教示をいただいた。

3年間の総括としては、目的を達成するためにその取組が適切だったのかを検証した。定量的な検証方法としては自己効力感のアンケートの調査、定性的な検証方法としては生徒へのインタビューを行うことが有効である。また、改善のポイントとしては、教師が課題を与えて生徒に活動させる場面だけではなく、生徒が主体的に動くような取組も考えるべきであるというアドバイスをいただいた。

さらに、アドバイザーからも直接生徒との聞き取りを行ってもらい、生徒の変容から感じ取ったことをもとに、本校生の持っている活動能力を生かして、上記に述べたような生徒の主体的活動を計画するといったアドバイスもいただいた。紙面を借りて感謝の意を表したい。

③の「その他」は、規範意識の涵養や自ら学ぶ力の育成により、心身ともに健康な人間を育てていくことを追求したいと考えた項目であるが、今年度は文部科学省からの研究指定の3年目、完結の年であることから、指定の「その後」についての検討を行った。

3 Will Project としての取組

Will Projectの具体的な取組としては、I～IVの項目がある。このうち、キャリア教育に関する項目がIIである。

項目Iは「スクールマナー集会」として展開し、想定した以上の成果を得たと感じている。昨年度までの反省では年度当初に1回の実施で終わるより、年度途中でスクールマナーの意義を再確認した方がよいという意見があった。そこで今年度は4月と10月の2回実施することにした。

項目IIIの「学習指導の改善について」は、学習意欲を支える「自己決定感」「自己効力感」「他者受容感」の3つの観点に基づいた目標達成型の授業への取組である。月1度の授業参観日を設定し、参観後に授業者に対して、授業で普段心がけたいことを意見や感想として自由に伝えることができるようにした。また、2月の5教科による研究授業は、この「目標達成型の授業の研究」をテーマに実施した。到達目標である終了時課題を事前提示することが「能代高校の授業」として確立・定着してきている。

今年度は、さらに「目標達成型の授業の研究」を深めるために、授業参観後の協議会では、付箋紙を用いた研究協議を行い、客観的かつ発展的な意見集約もできた。

さまざまな制約があって、この冊子の原稿は、平成21年度のすべての取組が終了する前の執筆になってしまったことをご承知おきください。

Will Project ～夢と志をはぐくむ学校を目指して～

基本方針と今後の取組について（まとめ）

Will Project 推進委員会（H21.3）

1. 「Will Project」の基本的考え方

- ◎「人を育てる」ことを明確に意識した、人づくりのシステム化を目指す。
- ・生徒・職員のモチベーションを高める取組であること。
- ・学校を変える起爆剤となるものであること。

2. 基本方針

(1) 目指す学校像と人間像

- 学校像：夢と志をはぐくむ学校
- 人間像：様々な分野で日本や地域の中核を担う、心身ともに健康な人間

※地域の進学校としての立場を堅持し、生徒の能力や特性を最大限伸ばし、生徒が自らの夢の実現に向かって歩んでいくための土台をつくる。

(2) 目指す生徒像

- ①礼儀を含め、基本的な生活習慣が確立している生徒。
- ②自己の可能性に挑戦する気概を持った生徒。
 - a) 確かな学力を身につけた生徒
 - b) 主体的に学び活動する生徒
 - c) 明確な将来目標と達成意欲を持った生徒
- ③心と体を鍛え、健康で心豊かな生徒。

(3) 指導の柱

- (I) 基本的な生活習慣を確立する。
- (II) 己を知り、他を知り、社会を知ることで、学びの意欲を高める。
- (III) 学習指導の改善
- (IV) 文武両道の堅持

3. 具体的取組について

(I) 基本的な生活習慣の確立に向けて

- ①マナーアップ指導 ②礼法指導の実施
- ③規範意識の向上にむけた取組
- ④家庭との連携

(II) 己を知り、他を知り、社会を知ることで、学びの意欲を高めるために

- ①「総学の時間」を用いて、「学びの意欲を高める」取組を行う。
- ②各学年の取り組み
 - 1 年：社会を知り、夢を育む
方法：聴く、調査・整理・表現する
テーマ：探求活動をとおして社会を知り、自分の夢について考える。
ねらい：夢を持たせるとともに、調査力、整理力、表現力をつける。
 - 2 年：自分を知り、志を確かなものにする

方法：体験する、思考・探求・表現する

テーマ：体験活動をとおして自分を知り、社会での役割を考える。

ねらい：自主的活動を奨励し、計画・実践・まとめ（発信）・自己評価できる力をつけるとともに、ライフプラン作成能力をつける。

3 年：挑戦する気概を育てる。

テーマ：進路別探求活動をとおして、進路目標に関する研究を深める。

ねらい：自律心と向上心、目標達成意欲を高め、困難に負けない力をつける。

③運営体制

(ア) 進路指導部内に「キャリア班」をおいて対応する。

(イ) これとは別に「Will Project 推進委員会」を構成し、企画・調整を行う。

(III) 学習指導の改善について

①カリキュラムの改訂

②日課表（時間割）の見直し（H19. 4からの継続）

(ア) 時間割は次の通り。

○50分授業週3日6コマ、週2日7コマで実施。

○7コマの曜日は、火曜日と木曜日。

○総合学習は水6校時、LHRを木7校時に実施。

○理数科の課題研究は、7時間目に確保する。

○SHR、「面接時間」を確保する。

(イ) 退校時間について

○「自学の日（部活休養日）」は、毎週火曜日。

○部活休養日以外の日は、生徒は7時までに退校、職員は8時までに退勤することを原則とする。特例を認める。

③朝学習・土曜学習・補習・AO対策等の効果的実施について

(ア) 朝学習・土曜学習について

(イ) 平常時補習の実施について

④授業改善研修の充実について

(ア) 本校で目指す「良い授業」とは

(イ) 研究授業の実施、「授業参観日」の設定

(ウ) 授業アンケートの実施

(エ) 教育専門監や予備校講師による授業を参観・研究会の実施

⑤評価法の研究

⑥学力向上対策の研究

⑦個別指導の改善

(IV) 文武両道の堅持について

①部活動の奨励・活性化 ②学習時間の確保

③教科外能力の評価 ④人間性の錬磨

※ 主な項目を取り上げて、詳細な記述は一部省略している。改訂部分に下線を付した。

平成21年度 総合的な学習の時間・LHR 年間計画

		1年(総学)	1年(LHR)			2年(総学)	2年(LHR)			3年(総学)	3年(LHR)	備考	
4月	6月	LHR	部活動説明会	特活	LHR	クラス別活動	学年	LHR	クラス別活動	学年			
	9日	総学	スクールマナー集会	C	総学	スクールマナー集会	特活	LHR	スクールマナー集会	特活			
	15日	LHR	進路希望調査①	進路	LHR	進路希望調査①	進路	LHR	進路希望調査①	進路			
	16日	総学	Will Projectの説明会	C	総学	Will Projectの説明会	C	総学	Will Projectの説明会	C			
	22日	水	生徒会常置委員会	特活	LHR	生徒会常置委員会	特活	LHR	生徒会常置委員会	特活		昭和の日	
	29日	水	生徒総会	特活	LHR	生徒総会	特活	LHR	生徒総会	特活			
5月	6日	水	上級生講話	進路	総学	インターンシップ 事前指導①	C	総学	小論文指導①	学年		振替休日	
	13日	LHR	交通安全講話	生指	LHR	交通安全講話	生指	LHR	交通安全講話・ 教育相談講話	生指			
	14日	木	壮行会・報告会	特活	LHR	壮行会・報告会	特活	LHR	壮行会・報告会	特活			
	20日	水	防災訓練	総務	LHR	防災訓練	総務	LHR	防災訓練	総務		月曜授業	
	21日	木	職業研究①	C	総学	進路指導資料説明会	進路	LHR	小論文指導②	学年			
	27日	火	職業研究②	C	LHR	クラス別活動	学年	LHR	進路指導資料説明会	進路			
6月	3日	水	社会人講話①(2)	C	総学	インターンシップ 事前指導②	C	総学	小論文指導③	進路			
	4日	木	薬物乱用防止教室	生指	LHR	薬物乱用防止教室	生指	LHR	薬物乱用防止教室	生指			
	10日	水	職業研究③	C	LHR	クラス別活動	学年	LHR	小論文	学年			
	11日	木	進路講演会(2)	C	総学	進路講演会(2)	C	総学	進路講演会(2)	C		社会人講話②と兼ねる 第1回審査 第1回審査 校内体育大会	
	17日	水	職業研究④(発表)	C	LHR	インターンシップ 事前指導③	C	LHR	小論文模試	進路			
	25日	木	社会人講話①	授業	総学	インターンシップ 事前指導④	C	総学	進路講話①(2) (藤岡氏)	進路			
7月	1日	水	能高祭準備	特活	LHR	能高祭準備	特活	LHR	能高祭準備	特活		能高祭休	
	8日	水	性教育講座	生指	LHR	性教育講座	生指	LHR	性教育講座	生指			
	9日	木	性教育講座	生指	LHR	性教育講座	生指	LHR	性教育講座	生指			
	13日	月	進路講話②(2) (小坂氏)	進路						進路		3年3-5交換、6総学	
	15日	水	社会人講話②	授業	総学	インターンシップ 事前指導⑤	C					パワーアップ講座	
	16日	木	学年集会	学年	LHR	学年集会	学年	LHR	クラス別活動	学年			
夏休み	21日	火	夏休み			インターンシップ出発式	C						
	22日	水	夏休み			インターンシップ	C						
	23日	木	夏休み			インターンシップ	C						
	24日	金	夏休み			インターンシップ	C						
	25日	土	夏休み			インターンシップ事後指導	C						
	8月	26日	水	学部学科研究①	進路	総学	インターンシップ 発表会 クラス	C	総学	進路別学習① (7/1 4校時)	授業		
27日		木	学年集会	学年	LHR	クラス別活動	学年	LHR	クラス別活動	学年			
28日		金	インターンシップ発表会	C	総学	インターンシップ発表会	C	総学	進路ガイダンス	C			
30日		日	十里強歩説明会	特活	LHR	十里強歩説明会	特活	LHR	十里強歩説明会	特活			
31日		月	学部学科研究②	進路				授業	総学	進路講話③(2) (宇田津氏)	進路		進路講演会振替 (6/11 6校時)
9月		10日	木	進路講話(2) (宇田津氏)	進路			進路					火曜授業
9月	16日	水	社会人講話③(2)	C	授業	進路講話① (9/10 5校時)	授業	総学	進路講話② (7/13 4校時)	授業			
	17日	木	生徒会役員選挙	特活	LHR	生徒会役員選挙	特活	LHR	生徒会役員選挙	特活		秋分の日	
	23日	水	秋分の日										
	24日	木											
	30日	水	学部学科研究③	進路	総学	大学研究①	進路	総学	進路講話② (7/13 6校時)	授業			
	10月	1日	木										芸術教室
10月	7日	水	大学見学会準備	進路	授業	進路講話② (9/10 6校時)	授業	総学	進路講話③ (9/9 4校時)	授業			
	8日	木	授業アンケート	研修	LHR	授業アンケート	研修	LHR	授業アンケート	研修		月曜授業	
	14日	水	クラス別活動	学年	LHR	修学旅行①	学年	LHR	クラス別活動	学年			
	15日	木	社会人講話④(3)	C	総学	大学研究②	進路	総学	進路別学習①	進路			
	21日	水	クラス別活動	学年	LHR	修学旅行②	学年	LHR	クラス別活動	学年			
	22日	木	大学見学会	進路				総学	進路別学習②	進路		2年修学旅行	
11月	28日	水	コース選択について	学年	LHR	GTEC	学年	LHR	クラス別活動	学年		2年修学旅行	
	29日	木	社会人講話⑤	授業	総学	大学研究③	進路	総学	進路別学習③	進路			
	4日	水	クラス別活動	学年	LHR	Willプラン作成説明会(2)	C	LHR	クラス別活動	学年			
	5日	木	社会人講話⑤(準備)	C	総学	出前講座(4)	進路	総学	進路別学習④	進路			
	11日	水	社会人講話④	授業	総学	出前講座①	進路	総学	進路別学習⑤	進路			
	12日	木	社会人講話⑤(2)	C	総学	出前講座②	授業	総学	進路別学習⑥	進路		3年定期考査 3年定期考査	
12月	18日	水	コース・科目確認	学年	LHR	GTEC	学年	LHR	進路別学習⑦	進路			
	19日	木	クラス別活動	学年	LHR	Willプラン作成指導①	C	総学	進路別学習⑧	進路			
	25日	水	クラス別活動	学年	LHR	Willプラン作成説明会振り替え	授業	LHR	クラス別活動	学年			
	26日	木	クラス別活動	学年	LHR	Willプラン作成指導②	C	総学	進路別学習⑨	進路			
	2日	水	クラス別活動	学年	LHR	小論文模試	学年	LHR	クラス別活動	学年			
	9日	水	クラス別活動	学年	LHR	小論文模試	学年	LHR	クラス別活動	学年		第3回考査 第3回考査	
1月	10日	木	クラス別活動	学年	LHR	Willプラン作成指導③	C	総学	進路別学習⑩	進路			
	16日	水	学年集会	学年	LHR	クラス別活動	学年	LHR	クラス別活動	学年			
	17日	木											
	13日	水	クラス別活動	学年	LHR	Willプラン発表原簿作成	C	LHR	クラス別活動	学年		月曜授業	
	14日	木	Willプラン発表原簿作成	C	総学	Willプラン発表会	C	総学	進路別学習⑩	進路			
	20日	水	1年間のまとめ	C	総学	1年間のまとめ	C	LHR	クラス別活動	学年			
2月	27日	水	進路希望調査③	進路	LHR	進路希望調査③	進路	総学	1年間のまとめ	C			
	28日	木	クラス別活動	学年	LHR	クラス別活動	学年	LHR	クラス別活動	学年			
	3日	水	クラス別活動	学年	LHR	クラス別活動	学年	LHR	クラス別活動	学年			
	4日	木	クラス別活動	学年	LHR	クラス別活動	学年	LHR	クラス別活動	学年			
	10日	水	推薦入試ガイダンス	進路	総学	小論文指導②	進路	総学				建国記念の日	
	11日	木	社会人講話④	授業	総学	小論文模試	学年						
3月	17日	水	合格体験講話(推薦)	進路	LHR	合格体験講話(推薦)	進路	LHR	合格体験講話(推薦)	進路			
	18日	木	社会人講話⑤	授業	総学	出前講座⑤	進路	総学					
	24日	水	指導要録アンケート	学年	LHR	指導要録アンケート	学年	LHR	指導要録アンケート	学年			
	25日	木	合格体験講話(一般)	進路	総学	合格体験講話(一般)	進路	総学					
	17日	水	学年集会	学年	LHR	学年集会	学年	LHR					
	18日	木											

具体的な取組

社会人講話

目的・ねらい

企業や研究機関をはじめ社会の様々な分野で活躍している方々の講話を聴くことで、望ましい職業観や人生観を養う。また、将来の夢や志、生き方や在り方を真剣に考えることで、進路選択や進学意識の向上、進路目標達成に対する学習意欲の高揚を図る。

社会人講話① 6月3日

「働く」ということについて考え始めるきっかけをつくるため、生徒にとって身近な大人である保護者に講話をお願いした。また、担任の思いを語ることで、クラスの深まりと団結を図った。

● 講師一覧 ●

1 A	佐藤 明子 高杉 誠	山本組合総合病院 八峰消防署
1 B	田中 正浩 高杉富喜子	たなか耳鼻咽喉科病院 能代市役所
1 C	加藤 成二 佐藤 隆一	金岡小学校 能代市役所
1 D	熊谷 祐子 佐藤 充	鶴形小学校 あきた白神体験センター
1 E	清水 竜喜 平川 賢悦	山本組合総合病院 能代市役所
1 F	小笠原達志 加賀 次朗	会宮薬局のしろ 加賀司法書士事務所

社会人講話② 6月11日

全国的に活躍している方であり、また上級生への進路講話も兼ねてという形で、元ユネスコ職員であり、現ICU客員教授である千葉泉弘さんに講演を依頼した。世界で活躍された方からの、受験に対するメッセージとエールを交えた講演とし、保護者にも案内を出した。

講師 ICU客員教授 千葉 泉弘
演題 「受験と夢のある人生」

社会人講話③ 9月16日

講師 庄内鉄工(株)代表取締役 庄内 豊氏

地元の有力企業である庄内鉄工(株)の代表を務め、本校の卒業生でもある庄内豊さんに講演を依頼した。地元から日本全国や世界を相手にビジネスを展開する庄内さんの志を語っていただいた。



講演会での質疑応答

社会人講話④ 10月21日

日本を代表する大手民間企業の中核で働いている方を講師にお招きし「企業の社会的役割と、働くことの意義や高い志を持って働くことの必要性」を説いていただいた。講師紹介を兼ねた集会后、各企業別の教室に分かれ、生徒は興味・関心のある分野や企業についての詳しい話を聞き、質疑応答を行った。

安藤 太郎	三菱電機株式会社 名古屋製作所 品質企画課長
大友 利光	(株)ベネッセコーポレーション 新商品開発課長
山縣 輝輔	日本精工株式会社 元設計部長
北條久美子	エイベックス・グループ・ホールディングス 総務部人材開発課主任
吉田 順	東映株式会社 映画企画管理部 企画管理室長

社会人講話⑤ 11月19日

小グループに分かれてグループ討議を行った。生徒の希望する職業をベースにして、薬剤師、弁護士、医師、市長、新聞、公務員等24人の講師を招いて、やりがいや使命感・働く意義を深く考えさせ、望ましい職業観や人生観の育成を図った。

● 講師一覧 ●

教員(幼稚園・保育園)	湊城幼稚園
教員(中学校)	能代市立第二中学校
公務員	能代市役所
公務員	秋田県庁
法曹界	武田法律事務所
通訳	ステップワールド英語スクール能代
会計	櫻井税務会計事務所
福祉	能代ふれあいデイサービスセンター
医師	社会保険病院
臨床検査技師	能代山本組合病院
理学作業療法師	能代山本組合病院
看護師	能代山本組合病院
薬剤師(薬局)	薬剤師会
獣医	たけくま動物病院
工学技術	秋田県立大学本荘キャンパス
建築	幹プランナーズ
プログラマー	秋田公立美術工芸短期大学

マスコミ	北羽新報社
スポーツ	秋田県スポーツ科学センター
デザイナー	ココラボラトリー
生物技術・科学者	木材高度加工研究所
栄養	能代山本組合病院
警察官	秋田県警機動隊
消防士	八峰消防署



グループ討議の様子（建築関係希望者）

成果と課題

5回の社会人講話それぞれについて、ねらいや形式をかえ生徒の夢や志の育成につながるよう工夫しながら計画・実施した。それぞれの講話はどれもすばらしかったが、事前事後指導の面では不十分な点もあった。

また、各社会人講話の他に職業研究や学部学科調査等の作業が並行して実施されている。こちら側からすると、それぞれの目的やつながりがあり、必要に応じて実施しているのだが、生徒にとって見ると、単に集会で話を聞く行事的な感覚であり、消化するだけの生徒が多く見られた。

それぞれを深める時間が必要だが、まったくそれができないまま次の企画が実行されていることが、毎年挙げられる問題点であり課題である。

ただし、最後の社会人講話は少人数制だったため、生徒の向かい方がまったく違っていった。本校生に対しては、ステージからの講演は最小限とし、座談会形式での少人数制で響かせないと、自覚や自主性は生まれない。

この反省を元に、徹底的な削減が必要不可欠であり、例年と同じような5回の実施では労力のわりに得られるものが少ないということが浮き彫りとなった。

この報告を次年度以降に確実に活かしてもらいたいと要望する。

インターンシップ

目的・ねらい

本県では、高校生インターンシップ推進事業を実施しており、原則として高校2年生修了までに全生徒が各事業所等での就業体験を行うことになっている。インターンシップを実施する学校の多くは一般に就職希望者を対象に高校卒業直後の就職が念頭に置かれているが、本校では進学希望者が大多数を占めることから大学等高等教育機関卒業後の就職を念頭に実施している。

本校におけるインターンシップの目的は、「将来の職業として希望している職種あるいは関係の深い職種で就業体験を行うことにより、当該職業への理解を深めながら自己の将来ビジョン構築の契機にするとともに、今後の高校生活において主体的に学ぶ態度を育成する」ことである。また、この活動を通して「夢と志の育成」をめざし、生徒に目標をつかませ生き方を考えさせることにより「学びの意欲を高める」ことがねらいである。

実施内容

(1) 事前指導

①実習先の決定

実習希望先については、昨年度に引き続き1年次後半から検討させていたこと、インターンシップを開始した平成19年度から継続して実績のある事業所を希望する生徒が相当数であったこと、事前に一次依頼をしていたことなどから概ねスムーズに決定していった。しかし、中にはやはりこれまでに実績のない事業所や県内での就業体験は難しい職種を希望する生徒もおり、こうしたケースには実習先の新規開拓および調整等に時間を要した。

②事前講習

「能代高校におけるインターンシップの意義」、「インターンシップの心構えとマナー」と題し、2回実施した。いずれも昨年度も好評だった外部講師に依頼した。ともに実践的な指導で職場

や社会の厳しさを実感させる内容であり、生徒の意欲や自覚を高めるものであった。



事前講習の様子

③受け入れ事業所との連絡調整

事前の打ち合わせ等は可能な限り生徒に行わせることを全職員での共通理解とし、担当教員は生徒の主体的な活動の支援に当たった。

(2) インターンシップ

今年度の実習先は県内外計77か所となった。なお、このうち31か所は新規に開拓した事業所である。期間は原則として7月22日～24日の3日間とした。

医療関係・薬剤関係希望者65名は、能代市や秋田市の病院・薬局・製薬工場において、各専門分野の極めて実践的な体験をし、またそれを通して医療関係従事者としての倫理観の基礎も体感した。教員志望者22名は、主に出身中学校において、授業や夏期講習・部活動指導の補助に当たるなどした。



インターンシップの様子 (たけくま動物病院)

(3) 事後指導

7月25日に生徒が出校し、クラスごとに終了の報告をし、インターンシップ日誌を提出した後、事業所宛の礼状や発表会用レポート作成に着手した。8月26日にはクラス内発表会を行って代表者を決め、その代表者6名は9月2日に1・2年生を対象とした校内発表会でその成果を発表した。個々の体験が全体に共有され、1年生にとっては将来のイメージを具体的にする貴重な機会となった。



国会議員公設秘書 インターンシップレポート

改善点

昨年度の反省点より改善が加えられたのは以下の6点である。

- ①主な実習先のうち、昨年度に引き続き受け入れを依頼する事業所への一時依頼は主にキャリアアドバイザーが担当した。
- ②新規に受け入れを依頼する事業所への一時依頼は主に校長が担当した。
- ③実施可能期間にある程度の幅をもたせることに

より、実施期日に対する事業所からの要望に対応できたとともに、(一部の中学校におけるインターンシップは授業日に実施していただくなど)体験内容をより実践的なものとしていただくことができた。

- ④受け入れ事業所への挨拶の電話や事前の打ち合わせなどは、可能な限り生徒に主体的に取り組ませるようにし、担当教員は生徒の活動を支援する立場を取るようにした。
- ⑤病院におけるインターンシップは、将来チーム医療に従事する者としての視野を広げるという観点から、複数の職種(例:理学療法士と看護師など)の体験を依頼し実施していただいた。
- ⑥事業所への礼状は、感謝の気持ちや自己の事前事後の変容がよく表れるよう工夫させた。

成果と課題

実施3年目ということもあり、特に実施初年度より継続しての事業所への受け入れ依頼や、生徒の事前準備等の流れはかなりスムーズに進行した。また、各事業所においても、本校のインターンシップの趣旨をよく理解しそれを踏まえた実習内容を提供していただき、生徒はその職業分野についての見聞を広げ、今後の学習意欲の高揚につなげる貴重な機会をいただいた。

一方、生徒が希望する職種でのインターンシップが県内では困難である場合、いかにして生徒の希望によりよく応えていくかが今後の課題として挙げられる。また、より能動的に取り組ませるための事前指導の工夫や、実習後に高まった意欲を学習等に効果的に発揮させるための事後指導の工夫も必要であろう。

生徒の感想より



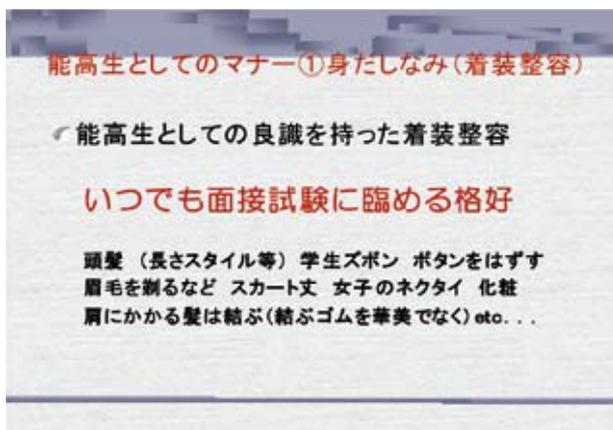
今回のインターンシップを終えて、ますます法律に関わる仕事に就きたいと思いました。法律事務所の方がおっしゃった「法律は法律を知っている人の味方だ」という言葉が脳に焼き付いています。法律は知らなければ不利に、知っていれば有利になる。法律の頼もしさを知る反面、恐ろしさも感じました。そんな法律だからこそ学んで人を助けられるようになりたいと思いました。

【能代ひまわり基金法律事務所・秋田地方裁判所能代支部】

スクールマナー集会

目的・ねらい

- Will Project の指導の柱にある基本的生活習慣の確立を図る。
- 学校生活のルール及びマナーについて、生徒職員間で共通理解を図る。



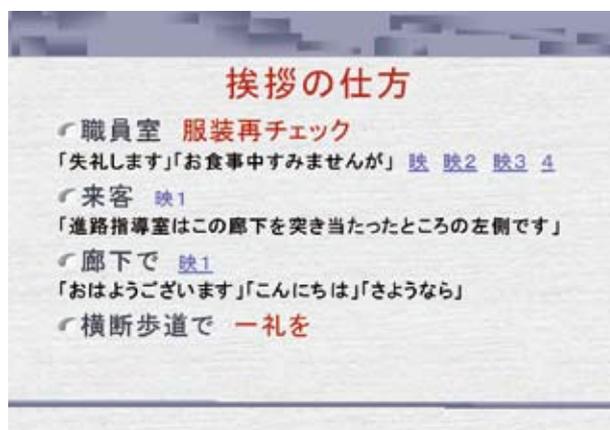
内容

Will Project の具体的取組の第一歩が「基本的生活習慣の確立」でスクールマナー集会は例年通り総合的な学習の時間の最初に実施、さらに昨年後期に規範意識が薄くなっていったとの反省から、10月にも全校生徒を対象にマナーアップ集会と規範意識の向上についての説明や授業を受ける上での心構えについても取り上げ、学校生活全般における規範意識の向上を図る。

2、3年生は一部同じ説明を聞くことになるが年度のスタートにあたり生徒職員が全員で内容について確認し、認識を新たにするという意味合いがある。

改善点

整容に関することは静止画像を使用し、来客への挨拶やマナー、職員室への入室、授業での受け答えなどの挨拶や礼儀ということは動画を使用しよりわかりやすくした。また前期の終業式で後期に向け、スクールマナー(制服の着用と交通安全、情報モラル)について再確認した。



成果と課題

これまでも生徒の挨拶は来校者や新任の教職員からの評価がよく定評がある。基本的生活習慣の確立に向けて、この集会をきっかけにしさらに挨拶がよくなり整容面も改善する傾向が見られる。後期にも実施したことで年間を通してスクールマナーが保たれた。この集会だけではなく、普段の授業や生活の中での指導や昇降口指導、街頭指導などの効果により、Will Project の精神が浸透してきた。次年度以降も、維持・向上ができるよう取り組んでいきたい。

職業研究・学部学科研究

目的・ねらい

○夢を持たせその実現に向けたプロセスで、各種情報の調査力・整理力・表現力の育成を図る。

【職業研究】

○働くことへの視野を広げるために、情報収集手段と自己の適性を認識させる。

○職業選択の際の判断基準として、自分の夢や志、価値観や行動特性、自分の能力などを手がかりとすることを気づかせる。

○社会人講話、学部・学科研究、ライフプラン作成の下地を作る。

【学部・学科研究】

○興味や関心のある学部・学科について詳しく調査し、レポートにまとめることから、進学意識と学習意欲を向上させる。

○2年次以降のコース選択の動機付けとする。

内 容

職業研究① 「ガイダンス」

事前の担任研修後、HRごとにワークシートと今後の研究方法の説明を実施。

職業研究② 「学習」

働くことの意味を考え、働くスタイルの多様性について考えさせた。それを踏まえ、グループディスカッションを実施した。

職業研究③～⑤ 「調査・発表原稿作成」

情報科の協力を得て、授業内で職業適性を診断し、その結果と自己分析で調査する職業を決定、調査を開始した。

職業研究⑥ 「レポート最終仕上げ」

仕事内容のみならず、志望理由ややりがい、社会的責任など自分の考えも記入させた。

職業研究⑦ 「発表会」

各自が作成したレポートをもとに、小グループごとに発表した後、代表生徒のクラス内発表を実施した。自分とは異なる考えや価値観で職業を選び、その志の高さに驚いたりする場面もあった。また、ほかの生徒が選んだ職業にも目を向けるきっかけになり、視野も広がった。

作成されたレポートは学校祭で展示して、保

護者にも日頃の取組の様子と成果を知っていただくことができた。

学部・学科研究① 「ガイダンス」

研究の必要性と具体的な調査方法について説明。その後、希望学部分類のアンケート実施。

学部・学科研究② 「グループ別活動」

10グループの学部分類ごとに、調査する学科を決定するために、担当教員が中心となり各自の興味や考えを交換した。

学部・学科研究③ 「調査研究、レポート作成」

学部・学科研究④ 「発表会」

各HRで小グループごとに発表した。

学部・学科研究⑤ 「オープンキャンパス」

弘前大学見学会において、希望学部の模擬授業を聴講し進学意識の高揚に努めた。その際、それまでの調査過程で各自が関心を抱いた点と、実際との違いなどを確認できた。

改 善 点

昨年度は教育情報企業のスタッフを招いて、職業選択とそれに関わるライフスタイルについて説明していただいたが、職業適性診断をすることで生徒の自主的な活動を進めた。生徒が自分で考える場面を増やすことを一層重視した。

成 果 と 課 題

○職業研究によって、将来を見通した自己像を描く基礎ができた。「初めて自分の将来に向き合うことができた」という声がそれを物語っている。そこから学部や学科への関心を持つことになり、進学に対する前向きな姿勢を持つことになった。

○発表や互いに意見を交わす経験を通し、多様なものの見方を身につけ、他人への意見表明も徐々に臆することなくできるようになってきた。

○この経験を成長の糧とするか否かは生徒個人の問題ではあるが、深めさせたり振り返らせる場面をどのタイミングで設定するか、検討する必要がある。

○日常の学習活動との関連づけを具体的に検討する必要がある。

大学出前講座

目的・ねらい

大学教員から、各学部・学科の講座を実際に受講することで、学問の深さを知り、学びたい分野に対する興味・関心をより強いものにする。同時にその学部に対する進学意欲の高揚を図り、日々の学習意欲を喚起する。

内 容

日時：平成21年11月11日 3・4校時
5・6校時

● 講座一覧 ※1人2講座受講

「グローバル化の諸相」

国際教養大学・国際教養学部

「情報法&サイバー法入門」

新潟大学・法学部

「高校生のための経済学入門」

岩手大学・人文社会科学部

「教育を『科学』しよう」

東北大学・教育学部

「古典の授業に関係したテーマで」

秋田大学・教育文化学部

「健康作りのための楽しい運動指導」

仙台大学・体育学部

「宇宙にいくってどういうこと？」

宇宙航空研究開発機構

「地球環境のむずかしい話」

山形大学・理学部

「認知症を学び地域で支えよう」

秋田大学・医学部保健学科

「細胞の顔『糖鎖』と病気の関係」

東北薬科大学・薬学部

「成人・小児への一次救命ポイント」

秋田大学 医学部医学科

「その差は有意か？」

秋田県立大学・生物資源科学部

改 善 点

大学研究の一環として1年次にオープンキャンパスを実施し、2年次春から出前講座の準備に取りかかった。夏休み前には生徒に希望調査をし、出来る限り希望にあった講座を受講できるよう、講座数を増やした。また大学だけでなく、将来研究の道に進もうと考えている生徒向けに、「宇宙航空研究開発機構JAXA」にも依頼した。

成果と課題

高校での学習と大学での学問研究の違いを実感したようである。また、高度な学問研究を進めていくためには、高校での学習が基礎になっていると再認識したようである。

各大学との連携を今回限りにはすることなく、継続的な高大連携を図ること、大学側から産学連携を紹介してもらうことによって、大学卒業後の世界を知っていく機会を設けることが、今後の課題となるであろう。



「グローバル化の諸相」 国際教養大学・国際教養学部

生徒の感想より



今まで自分は個人情報やプライバシーといったことについて誤った認識をしていたのだと分かった。実際の個人情報保護法の条文や簡単な判例などを見て、大学の講義では、どのようなことをしていて何が必要なのかというのを感じ取れた。法学部を設置している大学等は全国的に少ないと聞いて、法学部を選ぶとしたらゼミなどまでしっかり調べて自分の目的に合った大学を見つけたいと思った。今回の講義は自分の進路を決めるためのよい機会となった。

「情報法&サイバー法入門」を受講して

農学や生物学には数学は必要ないと思っていたけれど、自分で研究して結論を出すために数学は必要だということを初めて知った。どの分野の学問を学ぶにしても、その分野の知識だけではいい結果を得られないのだと思った。私は数学は苦手だが、好きな生物を学ぶためにはもっと頑張ろうと思え、実際に勉強に励みたい。「その差は有意か？」を受講して

ライフプラン

目的・ねらい

一年間の活動の集大成として、将来の夢や志を含めたライフプランを作成する。

また、その発表をとおして、自分の考えを他者に伝える態度を養い、生徒同士の相互理解を深める。

内 容

11月26日、ライフプランの作成は一年生を第一体育館へ集めることから始まった。まずは校長から趣旨の説明をしてもらい、続いて進路主任から要項とワークシートを配布し、今後の流れを説明する。

12月2日と16日は、ともに教室においてワークシートの作成指導に当たっており、完成した生徒から担任に提出する。

担任は添削指導を実施し、許可の下りた生徒はライフプランの作成に移った。

生徒は冬休み中にライフプランの作成に尽力することで、自分の人生設計をし、夢と志の実現のためのビジョンを描いていく。

冬休みがあけた1月14日は、ライフプランの完成、提出日となっており、まだ間に合っていない生徒は作成に取り組んだ。

また担任は各クラスから2部ずつを全体発表用を選択し、それを拡大ロール印刷して次週の発表に臨んだ。

そして1月20日は、最初の20分間をグループ発表の時間とした。各クラスを6人前後のグループに分け、そのグループ内で自由に質疑応答を含め発表することで、自分の夢や志に対する改善点や第三者の意見を謙虚に聴く。また、お互いの理解のために有効な時間となった。

質疑はどのクラス、どの班も活発であり、楽しそうな表情が伺えたことは喜ばしい。

その後の時間を用いて、事前に準備していた全体発表の生徒を登壇させ、全員の前で発表した。

生徒はそれに対してワークシートを作成し、それぞれの感想や意見を書き込んだ。

また、1月下旬から2月上旬にかけて、さらにそ

れぞれのクラスの一名を選び、校長室での発表も実施した。

校長の視点からの鋭い指摘や意見を伺うことで、生徒にはより具体的なライフプランが見えてきたものと思われる。



ライフプランのクラス発表

改 善 点

ライフプランの作成は、今行っている勉強に対して主体性をもたらす上で重要なものである。しかし、ともすれば時間の制約があり、各自で作成することができない環境の生徒もいる。これもあまりに詰め込みすぎている弊害がある。

取組自体は有意義なものであるだけに、もっと作成に取り組める時間を確保する必要がある。

成 果 と 課 題

各クラスとも大変盛り上がった。特に発表の前半の各グループ別発表では大変活発な活動となり、グループ発表の有効性がうかがわれる。特に現在の高校生はグループ討議を小中学校時代に大いに実施してきている世代であり、全体の前で話を聞くことには慣れていない。

そのような生徒の実態に合わせた、取組や授業形態も研究していかないと、常に教師側の空回りで終わってしまうと実感した。

この世代の特徴については大いに調査・研究する必要があることに気づいた。

Willプラン

～志望理由書作成について～

目 的

大学入試の志望理由書の作成に関する基礎・基本事項について確認させ、受験生としての自覚を促す。

1) 大学研究

9月30日(水)、10月21日(水)、11月4日(水)、総合的な学習の時間を使い、生徒それぞれが将来就きたい職業から目標とする大学について調査を行った。将来の希望職業が明確ではない生徒については、学問から調査する大学を決めさせた。

情報処理室のインターネットや進路指導室の大学案内、また教室内の進路資料を十分に活用し、大学の基本理念や目標、研究室での研究内容を調べさせた。しかし、回数を重ねるごとに生徒間の進捗状況に大きな差が出てきはじめた。そこで、その都度HR担任や副担任などが個人面談やHR全体へ指導を行った。ここで調査したレポートは、次の段階の志望理由書の作成時に使われる。

2) 志望理由書の作成について(講演)

11月5日(木)6および7校時、本校第一体育館を会場にGlobal Gain Communication 代表取締役の藤岡慎二氏を講師にお招きして、志望理由書の作成に関する講演を開催した。対象は2年生全員である。内容は『志望理由書の書き方には、必要

な7つの観点が存在する。①これまでの活動実績、②活動実績を通して学んだ価値観、③そこから感じた問題点、④社会的な意義、⑤課題と解決策、⑥その課題の解決にその大学でなければならない理由、⑦大学での学びを通して社会で何をしたいかを記入することが、明確な志望理由書を作成するために必要である』といったかなり具体的なものである。事前に調査していた大学研究は「⑥その課題の解決にその大学でなければならない理由」で用いられる。

3) 志望理由書作成

藤岡氏の講演を受けて、生徒は志望理由書の作成に取りかかった。7つの観点のすべてについて2年生の段階で書かせるのは、生徒にとって厳しいことが予想されたためであり、7つの観点のうち「①活動実績→②そこから学んだ価値観→③問題意識→⑤課題と解決策→⑥その大学である理由→⑦大学での学びを通して社会で何をしたいか」について書かせた。下書きから清書までの作業は、冬季休業中の課題であった。

4) 発表会

1月20日(水)6校時、総合的な学習の時間を使ってホームルーム単位で発表会を行った。発表の形式は、類似する学部・学科を希望する生徒を1つのグループ(5、6人程度)にまとめ、その中で発表させる。発表後はグループ討議をさせ、観点別に相互評価する。評価の観点は、上記志望理由書作成で藤岡氏からご指導いただいた7つの観点のうちの6つが明記されているかである。グループ討議の中では問題意識について不明瞭な書き方をしている生徒が、他のメンバーにどのような問題点があるのかを質問している場面も見られ、非常に有意義な時間であった。

後日、評価表は担任が確認後にそれぞれの生徒へ返却した。これによって他の生徒が自分の志望理由書をどう評価したのかを確認することができる。





この一年を振り返って

～成果と課題～

1 調査研究①について

キャリア教育の在り方に関する効果的な
指導内容・指導方法の充実・改善

1年次には大変ハードに思えた取組も、2年次ではその経験を十分生かしながら、指導体制の再構築を行った。進路指導部の役割分担を「進路班」と「キャリア班」に分け、キャリア教育の指導を主に「キャリア班」が担当し、進路指導部内の役割を明確にすることで、総合的な学習の時間の実施は円滑化が図れるようになった。キャリア班は各学年の担当によって構成され、毎週定期に開催される班会議で確認されたことが学年部に周知されるようになった。これが体制づくりによる成果である。

指導方法に関しては、各計画の相互の関連性をわかりやすくするため、今年度も事前指導や定期的な広報活動に力を入れた。

昨年度 Will Project の構造化を行ったことから、1年生全員に3年間の総合的な学習の時間で使用するワークシートのすべてを1冊にまとめたファイルを配付した。「どの時期に」「何を」「何のために」、そして「何を学べばよいのか」「学んだことで自分はどうなればよいのか」など、相互の関連性が時系列的にわかるようにした。そのことでキャリア教育のねらいとする「己を知り、他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高める」指導で、次のような効果があった。

教師も生徒も本校のキャリア教育の取組に対し、見通しと心構えを持つことができた。また、取組時期が把握でき、その活動の事前の打ち合わせと事前指導の早めの対応ができた。さらに、2年次、3年次の計画も知ることで、1年次ですべきことの位置づけも理解できるようになった。

生徒の変容ぶりは生徒の自己効力感アンケートの分析で把握し、その結果を取組の評価法にして

いる。ただ、質問項目の多さや調査分野の項目数のバランスなど、その見直しが課題である。また、社会人講話では回数の多さから、事後指導の不十分さが指摘された。

2 調査研究②について

キャリア教育の専門的知識を有する外部
人材の活用及びその活用の在り方

今年度も、いわゆる社会人講話のほかに出前講座、進路講話、マナー指導などに外部からたくさん講師を招いた。

取組3年目は1・2年次の手順の蓄積により、講師依頼がよりスムーズに行われるようになった。各職種に対応した講師24人を一度に招く「社会人講話⑤」の講師依頼も、依頼したほとんどの方々に快諾していただくことができた。

3年連続して講師を依頼した方の一人からは、「1年目は講師1人の一方的な講話形式でしたが、2年目からは、公務員希望者に対して県および市職員の二人が講師を務めました。そして、生徒と双方向の講話形態となり真剣な生徒が多くなったという印象をもちました。」という感想をいただいている。

国内の企業で活躍している方を講師に招く「社会人講話④」では、本校における同窓会の各支部の方に講師の推薦をお願いしたところ、今年度も適切な講師の紹介をいただき、実施することができた。

3 調査研究③について

③は「その他」である。「確かな学力」をつけることが Project 全体の最大課題である。これまでの取組の成果を生かし、この課題に向けた努力を続けたいと考える。

三年間の取組を振り返って

～教員の視点から～

Will Project の実践にあたっては、3年間を1つのスパンとして綿密な計画を立てたことから、計画の微調整は許容するものの、4つの大きな指導の柱や評価規準については変更しない方針を維持してきた。その一区切りがついたところで Will Project 推進委員会でも総括を行い、この3年間の成果と課題を以下のようにまとめた。

成果と課題

(成果)

- ① 全学年を通じて体系的に取組を行い、生徒の目的意識や内面に変化を与える（気づきを与える）工夫ができてきたこと。
- ② Will Project の推進に当たって、地域やOBとの連携を図ることができたこと。
- ③ スクールマナー集会などの実施により、基本的な生活習慣や規範意識が更に向上したこと。
- ④ 体験的な進路学習を取り入れることで、生徒の進路意識が高まったこと。
- ⑤ 生徒の内面をチェンジする啓発的指導は、生徒によっては効果絶大であったこと。
- ⑥ インターンシップや社会人講話を積極的に行うことで、生徒自身の視野を広げることができたこと。

などが上げられる。その効果を高めるためには、生徒の内面に問いかけ考えさせるような事前指導と事後指導の充実、面接指導による生徒一人ひとりに適した直接的なアドバイスが必要であり、生徒自身の気づきを学びに変えていくことが重要であると再認識できた。

(課題)

- ① 生徒自身の気づきをもっと深まるようなワークシートを考案する必要がある。自分の成長を知ることができ、深めた考えが次に繋がるようなものにしなければならない。
- ② 生徒が考える力をもっと発揮できるような指導案等を工夫する必要がある。
- ③ 生徒が自主的に企画できるような場の設定も必要である。新しい試みを始めたため、多くのものを教師主導で行ってきたが、取組が定着してきた現在においては生徒にまかせてもいいものが多々ある。
- ④ 企業側がインターンシップを受け入れることは大きな負担になっていると思うのだが、生徒のために快く引き受けてくれるところがほとんどである。しかし、県外の企業を（本校の主旨を理解してもらって）新規開拓する際には苦勞することが多い。
- ⑤ 学習指導に関しては、もっともっと自発的に学習に取り組む仕掛けを考える必要がある。内発的な意欲を育てることと同時に、家庭学習を習慣化させる仕掛けも必要である。
- ⑥ 文武両道の堅持については、生徒個々に任せている観が否めない。生徒の実情をもっと把握する必要がある。

まとめ

教員へのアンケート結果や本校の中長期ビジョンに関する小グループでの話し合いの状況などからも、多くの職員が Will Project を積極的に評価しており、来年度も大きな方針変更をせず継続実施すべきという結論に達した。

前述の成果と課題をふまえ、勤務時間外に設定されている朝学習や土曜学習の実施方法を含めた学校運営全体に関わること等について、Will Project 推進委員会を中心に原案を作成している。生徒や保護者のアンケートからはこのような拘束時間の多さなどが、自分で計画的に学習することの阻害要因としてあげられている場合も少なくない。生徒の自発的な学習を推進する目標とは相容れない指導であるとの意見は少ないが、実施方法を改善することによって、最終目標達成の有効な手段としていきたい。

周知のことであるが、平成25年度から始まる新

学習指導要領においては、キャリア教育や就業体験のいっそうの推進が促されている。したがって、全国の高等学校が今後 Will Project のような取組に力を入れていくことが予想される。本校が全国に先駆けてこのような実験的取組ができたことは非常に意義の深いことであった。来年度以降もすでに述べたような点を大きな改善の柱とし、よりよく行っていくためには「どのように実施していくべきか」ということを、これまでと同様に議論を重ねていくことになると思うが、「すべては生徒の幸せのために」という理念のもと、更なる発展を目指したい。

～生徒の自己効力感調査の分析から～

Will Project の評価方法として、アドバイザー(辰巳哲子氏)の助言のもと、本校では生徒の自己効力感を調べることにしている(詳細は実施報告書1年次参照)。学年間の比較については実施報告書2年次でも述べているが、分析に関してはアドバイザーに多大なるご協力をいただいている。

最終年度に関しては、この Project を1年生から経験してきた、現3年生の3年間の経年比較も行えるようになった。よって報告書3年次では、この分析について述べておきたいと思う。ただし、紙面の都合上、データは一部を紹介する程度に留めた。

学年間の比較から見えてきたこと……

○学習分野(確かな学力、主体的に学び活動)

授業態度、提出課題、各種試験への取組等、学習の基本姿勢は良好であり、目的意識を持って学習に取り組む生徒が増えている。しかし、学習方法に不安を持つ生徒の割合が多いことや能動的な発言の少なさ、学習時間が伸びないなど、行動面での自信のなさが目につく。特に1・2年では、意欲はあるが行動に結びついていない。ただ、3年卒業時になって大きく改善される。この点については、1月末に調査を実施している点を考慮する必要がある。志望校へ合格している生徒もいるため、その結果かなりの自信を持つことが予想されるからである。また、調査・探求・表現の基本スキルには自信を持っているが、実際にデータを

まとめ、自分の考えを皆の前で発表することに不安を持っているようだ。いかに様々な場面で活用させるかが課題である。

○進路分野(目標と達成意欲、挑戦する気概)

大半の生徒が将来の夢や方向性を具体化し、自分の課題も明らかにしながら、目標達成に向けたプランニングができるようになりつつある。自分の適性、社会で求められる能力や役割についての認識も深めている。将来への意欲の高まりも見られるが、行動において受け身の姿勢がまだまだ抜けきれていないように思われる。

○生活分野(礼儀、基本的生活習慣、心と体)

部活動加入率は約88%である。多くの生徒が勉強と部活動の両立に一生懸命に取り組んでおり、その意義も理解している。挨拶を含め学校での基本的マナーは非常によく、礼儀正しい。諸行事へ取り組む意欲も高く、他と共同・協力して物事にあたる態度ができています。ストレス耐性にばらつきが見られるものの、対応力が身につけていくことがうかがえる。

3年間の経年比較から見えてきたこと…

全体として、学習分野、進路分野ともに3年次の向上が著しく、卒業時にはほぼ全ての項目で「自信を持った」状態になっている。しかしながら、学習分野の「小論文、学習方法、主体的学習習慣」、

進路分野の「人生設計、学習や体験を活かすこと、志望校の詳細情報」に関しては、2年次までの向上が少なく今後の検討課題である。特に、「ノートを取り方」などの学習の基本は1年次で決まりその後の変化がほとんどないこと、「自分から手を挙げて質問、意見を言うことができる」という項目については3年間自信がないままであることなど、指導上の課題が見えてきた。

生活分野では、規範意識や基本的な生活習慣など多くの項目で入学時から高い自信を示しているが、2年次になると約4割の項目で自信を失い、3年次になると大幅に盛り返すという傾向が見られた。1年次と3年次を比較すれば、ほとんどの項目で自己効力感の上昇している。キャリア教育では、発達段階に応じて少しずつ自己効力感を高めていく必要がある。1年次から2年次にかけての上昇率については「少しずつ高めていく」様子が確認

できた項目もあるので、今後は1年次から2年次にかけて上昇の確認できなかった項目について、その解決策を検討する必要があると考える。

○1年から2年の変化

1年次で自信のなかった「高校卒業後の生活等に関する事項」は、上級生講話などの「知る機会」の提供で向上している。学習分野の「学習方法」「時間の使い方」に関しては自信をもてないままでいるが、進路分野に関してはおおむね「できると思う」と考える生徒が増加している。進路学習で得たものが自分のものになっていると推察される。

○2年から3年の変化

学習分野と進路分野に関しては全体的に上昇しており、ほぼ全ての項目で自信を持っていることが確認できた。生活分野に関しても上昇率は低い

表1. 自己効力感の経年比較 (H22年3月卒業生)

分類	小分類	設定段階	質問項目
学習 学習	授業態度 授業態度	基礎段階 発展段階	授業中指名されたら、返事をして起立する 授業中に、自分から手を上げて質問したり考えを述べる
学習 学習 学習	思考と表現 思考と表現 思考と表現	基礎段階 移行段階 発展段階	小論文の課題に出題されそうな、話題や出来事に関心を持っている 小論文の構成の基本（用語や考え方）を知っている 志望校の小論文に取り組み、類似する課題に挑戦する
学習 学習 学習	学習スキル 学習スキル 学習スキル	基礎段階 移行段階 発展段階	効率のよい勉強の仕方や、勉強時間の使い方を知っている 文章力、読解力、聴く力、会話力、数学について、自分の力を伸ばす方法を知っている これからの人生で役に立つ、学習の習慣や学習方法を獲得できている
進路 進路 進路	意志 意志 意志	基礎段階 移行段階 発展段階	自分の将来の夢や志をもつ 社会の現実を踏まえながら、夢や志を実現する方法をみつける 夢や高い志を、実現させようという強い意志（気概）をもつ
進路 進路 進路	キャリアプランニング キャリアプランニング キャリアプランニング	基礎段階 移行段階 発展段階	インターンシップで学習したことが、どのように役立つか、理解している インターンシップで得た経験を、さまざまな場面に応じて活用する 教科やインターンシップで学習したことを日常生活で応用する
進路 進路	キャリアプランニング キャリアプランニング	基礎段階 発展段階	今後の自分の人生設計を立てる 自分の成長や置かれている状況に応じて、人生設計を修正する
進路 進路 進路	卒業した友人に学ぶ 卒業した友人に学ぶ 卒業した友人に学ぶ	基礎段階 移行段階 発展段階	先輩や卒業生が就職や進学などを決定する際に、誰に相談したり、意見を聞いたりしたか知っている 先輩が進学先の決定など進路を決める際に、どのような困難に直面したか、知っている 身近な大学生や仕事をしている人たちが、学生生活や職業生活でどんな問題を抱えているか知っている
進路 進路 進路	大学に関する進路決定 大学に関する進路決定 大学に関する進路決定	基礎段階 移行段階 発展段階	どのように大学を選べばよいか知っている 大学での専攻が将来の仕事にどのように役立つか知っている 自分の興味や能力を理解することが、仕事選びにどのように役立つか、理解している
日常 日常 日常	自己理解 自己理解 自己理解	基礎段階 移行段階 発展段階	自分の長所や短所を知っている 自分の長所の伸ばし方、短所との付き合い方を理解している 物事に取り組む時、自分の強みや持ち味をいかすことができる
日常 日常 日常	他者受容 他者受容 他者受容	基礎段階 移行段階 発展段階	自分と異なる意見や価値観に出会った場合、無視するのではなく、理解しようとする 他者の多様な個性を理解することができる 自分と異なる意見や価値観を尊重し、柔軟に受け入れることができる
日常 日常 日常	ストレス耐性 ストレス耐性 ストレス耐性	基礎段階 移行段階 発展段階	自分はどんなことにストレスを感じやすいか知っている たいいていストレスはうまく処理することができる 落ち込むことがあっても前向きに気持ちを切り替えることができる
日常 日常 日常	思考と表現 思考と表現 思考と表現	基礎段階 移行段階 発展段階	話し合いの場で、自分の意見を述べるができる 話し合いの場で、たいいてい場合には、はっきりと意見を主張する 話し合いの場で、意見が対立したときでも自分の意見をはっきりと述べるができる

ものの、もともとの平均値が高いことから自信を持っていることがうかがえる。

まとめ

3年間の調査研究であるため、取組についての大枠は変えずに実施してきた。ただし、毎年の調査結果をもとに、生徒の内面の成長を考慮しつつ、取組の精度を高めてきたつもりである。事前・事後指導のためのワークシートの充実や小論文指導の見直し、SC（スクールカウンセラー）講話や上級生講話の導入等がその例である。

また、アドバイザーによる生徒へのインタビュー調査の結果から「将来という未来を考える前に、じっくりと現在の自分自身を見つめ直したい」という希望をもっていることが判明した。自己理解を深める時間を確保することで、自分自身の変容や成長を気づかせるような仕掛けを作ることと、

これまで以上に（受け身でない）主体的な学習の強化と自己決定力の強化が必要であると思われる。校内では次年度に向けての見直し作業を行っているが、今後も生徒のより良い成長のための取組をしていきたいと考える。

3年間という長きにわたって本校の活動を見続けて下さった、辰巳哲子氏の的確なアドバイスのおかげで、精度の高い調査研究を続けることができた。また、学校の方向性を決めるにあたり初期にお力添えをいただいた藤田晃之氏、本校OBを講師に招くきっかけを作って下さった井瀧正彦氏、大手民間企業の中核で働いている方を紹介して下さっている東京同窓会役員の皆さま、自己理解や表現力の育成スキルをご指導下さった藤岡慎二氏、それから講師に来て下さった講師の方々、インターンシップ先でお世話になった企業の方々など、ご協力いただいた全ての方にこの場をかりて改めてお礼を申し上げたい。

1年時					2年時					3年時					3年時-1年時		
平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	平均値差	中央値差	標準偏差
5.61	1.22	6.0	2	7	5.46	1.33	6.0	1	7	5.73	1.19	6.0	1	7	0.12	0.0	-0.02
3.18	1.45	3.0	1	7	3.10	1.45	3.0	1	7	3.48	1.46	3.0	1	7	0.30	0.0	0.01
3.25	1.39	3.0	1	7	3.76	1.42	4.0	1	7	4.19	1.49	4.0	1	7	0.94	1.0	0.10
2.84	1.20	3.0	1	6	3.29	1.31	3.0	1	7	3.86	1.40	4.0	1	7	1.02	1.0	0.20
3.00	1.17	3.0	1	6	3.22	1.40	3.0	1	7	4.21	1.58	4.0	1	7	1.22	1.0	0.42
3.30	1.43	3.0	1	7	3.43	1.43	3.0	1	7	4.06	1.34	4.0	1	7	0.77	1.0	-0.09
3.40	1.39	3.0	1	7	3.77	1.39	4.0	1	7	4.05	1.30	4.0	1	7	0.65	1.0	-0.09
3.31	1.25	3.0	1	7	3.45	1.25	3.0	1	7	4.17	1.26	4.0	1	7	0.86	1.0	0.01
4.91	1.54	5.0	1	7	4.86	1.61	5.0	1	7	5.34	1.48	6.0	1	7	0.43	1.0	-0.06
4.42	1.24	5.0	1	7	4.59	1.24	5.0	1	7	4.94	1.26	5.0	1	7	0.51	0.0	0.02
4.50	1.37	5.0	1	7	4.54	1.47	5.0	1	7	5.11	1.34	5.0	1	7	0.60	0.0	-0.04
4.15	1.17	4.0	1	7	4.58	1.38	5.0	1	7	4.77	1.29	5.0	1	7	0.62	1.0	0.12
4.08	1.08	4.0	1	7	4.32	1.34	5.0	1	7	4.36	1.32	5.0	1	7	0.28	1.0	0.24
4.02	1.12	4.0	1	7	4.20	1.22	4.0	1	7	4.58	1.25	5.0	1	7	0.56	1.0	0.12
3.92	1.40	4.0	1	7	4.26	1.56	4.0	1	7	4.83	1.40	5.0	1	7	0.91	1.0	0.00
4.15	1.24	4.0	1	7	4.29	1.29	4.0	1	7	4.69	1.30	5.0	1	7	0.54	1.0	0.07
3.29	1.42	3.0	1	7	3.70	1.43	4.0	1	7	3.78	1.46	4.0	1	7	0.49	1.0	0.04
3.28	1.51	3.0	1	7	3.64	1.37	3.0	1	7	3.90	1.53	4.0	1	7	0.62	1.0	0.02
3.68	1.35	3.0	1	7	3.65	1.47	3.0	1	7	4.13	1.29	4.0	1	7	0.45	1.0	-0.06
3.91	1.51	4.0	1	7	4.23	1.40	5.0	1	7	4.95	1.28	5.0	1	7	1.04	1.0	-0.23
4.32	1.48	5.0	1	7	4.66	1.39	5.0	1	7	5.42	1.25	6.0	1	7	1.10	1.0	-0.23
4.74	1.21	5.0	2	7	4.64	1.22	5.0	1	7	4.92	1.16	5.0	2	7	0.17	0.0	-0.05
4.86	1.44	5.0	1	7	4.82	1.44	5.0	1	7	5.07	1.32	5.0	1	7	0.21	0.0	-0.12
4.01	1.46	4.0	1	7	4.18	1.45	4.0	1	7	4.51	1.32	5.0	1	7	0.50	1.0	-0.14
4.51	1.27	5.0	1	7	4.58	1.30	5.0	1	7	4.75	1.19	5.0	1	7	0.24	0.0	-0.09
4.70	1.17	5.0	1	7	4.79	1.23	5.0	1	7	5.03	1.08	5.0	1	7	0.33	0.0	-0.09
5.04	1.09	5.0	1	7	4.96	1.16	5.0	1	7	5.21	1.08	5.0	1	7	0.17	0.0	-0.01
4.84	1.23	5.0	1	7	4.92	1.32	5.0	1	7	4.92	1.19	5.0	2	7	0.08	0.0	-0.03
5.51	1.32	6.0	1	7	5.20	1.35	5.0	1	7	5.34	1.34	5.0	1	7	-0.17	-1.0	0.03
4.08	1.67	4.0	1	7	4.22	1.58	4.0	1	7	4.25	1.59	5.0	1	7	0.18	1.0	-0.08
4.17	1.68	4.0	1	7	4.13	1.60	4.0	1	7	4.26	1.53	4.5	1	7	0.09	0.5	-0.16
4.29	1.33	4.0	1	7	4.44	1.38	5.0	1	7	4.52	1.44	5.0	1	7	0.23	1.0	0.10
4.13	1.49	4.0	1	7	4.27	1.52	4.0	1	7	4.36	1.54	4.0	1	7	0.23	0.0	0.04
4.33	1.45	4.0	1	7	4.34	1.40	5.0	1	7	4.50	1.48	5.0	1	7	0.17	1.0	0.03

青字は、前年度より上昇率が高いもの。赤字は下降率が高い。標準偏差の青字は、ばらつきが前年度より減ったものをさす。

夢・志

夢を求めて

ライフプラン
Will プラン

夢を叶えるために

進路講演会

1年
視野を広げる。
● 職業研究
● 社会人講話

2年
資質と適性を知り、高い志を持つ。
● インターンシップ

3年
目標実現に必要な能力を理解し、意欲的に挑戦する。
1年~3年
社会に貢献する意義を考える

文武両道

学 習

基本的な生活習慣の確立

進路講話

1年~3年
大学入試に向けた学習法の確認

3年
学ぶ目的を明確にし、他者に論理的に伝えることができる。

2年
思考・探求・表現する力を高め体験を生かす。
● オープンキャンパス
● 大学出前講義

1年
調査・整理・表現する技法を習得する。
● 学部学科研究
● オープンキャンパス

基本的な学 習

アドバイザーの紹介

辰巳 哲子

(たつみさとこ)

リクルートワークス研究所
主任研究員



1992年株式会社リクルート入社。組織人事コンサルティング室の後、キャリア事業開発室にて、若者のキャリアカウンセリング業務に携わり、2003年4月より現職。キャリア教育の研究実績として、提言書『分断されたキャリア教育をつなぐ。』の発行（2004）、岐阜県教育委員会との共同研究（2003～5）、『基礎力の育成でつながる教育現場と社会』（2006）、三重県教育委員会キャリア教育手引書の作成（2007）などがある。

能代高校がキャリア教育の指定を受けてから3年が経とうとしています。3年前に当時の井上校長からお電話をいただいた時、こんなお話をお聞きしました。

優秀な能代高校の生徒たちには、次世代の夢を持って、将来の能代地域の振興に取り組んでほしいこと、そのためには、難関大学への合格者が増えることも大切だけれど、同時に、その先にある夢、つまり、学習がどのような自分の夢や地域への還元につながっているのか、ということを考えながら、日々の生活を送る必要があるのだということ、今の生徒たちにはその気概が弱くなっているように感じていること、主体的な学び、学習意欲の向上が必要であるように感じていることといったことです。**Will Project**では、その後、これらを夢(自分の夢)と志(誰のために夢を実現させるのか)というキーワードを軸にしながらか進めてきました。そして、この時に決めたこの「夢」と「志」は、他地域でのキャリア教育に取り組ませていただく中でも、非常に重要なキーワードであることがわかってきました。

全国のキャリア教育の実践を見ていると、「何をやりたいのか」を生徒たちに問う機会は、非常に多くあります。しかし、その夢を何に活かしたいのか、それをする中で人や社会にどうはたらきかけるのか、という視点は薄いように感じます。この「人や社会にどう働きかけたいのか」ということがまさに「働く」ことを考えることであり、この視点を当初から持って進めてきていた能代高校のキャリア教育はとても本質的で、生徒たちに大切な視点を投げかけてきたものだと今改めて感じています。

また、3年間の取組を通じて先生方にも変化がありました。どうすれば生徒に主体的に考えさせ、発言させる授業に変えてゆけるのか、2年目には授業改善についての取り組みも多く行われてきたと聞いています。また、当初、先生方のほうで、生徒のために、計画を立て、準備をされてきたことが多くありましたが、生徒の主体性を引き出すためには、もっと生徒に決めさせなければならない、生徒に任せるべきところは任せていかなければならないという意見が会議の中で出てくるようになりました。また、生徒自身の変化について、職員会議の中で話し合いが持たれたり、今の生徒たちにとって何が必要なのか、という視点での意見交換が行われてきたことは、能代高校のキャリア教育の成果の一つだと思います。

3年経って、先日、**Will Project**を継続してきた生徒にインタビューをする機会をいただきました。その際、進路決定の理由について、「こういう社会に変えていかなければならないと思ったから」「こんなことで困っている人を笑顔にしたいから」といった、「志」についてのコメントが多くあげられたことが印象に残っています。このように「志」を持った生徒たちは、今後、困難な場面に遭遇したとしても、「志」を軸にしながら自分の進路を見直し、前に進んでゆける力を持ち続けられるように思います。

指定期間は終了しますが、今後も能代高校は生徒のための変化を続けていくことでしょう。3年間の実践から、生徒の学びのプロセスに沿うこと、プログラム間の接続の重要性など、様々な気づきを得た能代高校への期待は高まるばかりです。アドバイザーとしては、あまりお役に立てたとはいえませんが、能代高校の先生や生徒の3年間の変化を共有できたことに、心から感謝しています。ありがとうございました。

来年度以降の 計画について

1 Will Project の実施について

「確かな学力」をつけることが Project 全体の最大課題である。この春卒業する学年が純粋な意味で Will Project の1期生であるが、Project 以前の卒業生との大きな違いは、推薦入試による国立大学の合格者数である。それまで、8人、8人、21人と推移してきたが、Project を開始した平成19年度からは、39人、21人、35人と推移している。これは大学が推薦入試において求める受験生の学力と Project 全体の最大課題とした「確かな学力」とが類似していると考えられる。このことから来年度以降も Will Project を継続することになっている。

2 キャリア教育について

3年間取り組んできた Will Project の成果は上記のとおりである。Will Project 推進委員会では、3年間の総括でキャリア分野の取組が「確かな学力」の伸長に成果を挙げたと評価し、来年度もキャリア教育の実施を提案することにした。

今年度は1年生全員に「総合的な学習の時間」の内容をファイルにした冊子を配付し、その成果については「一年を振り返って」のところで述べた。しかし、学年部から「総合的な学習の時間」について、次のような課題もあげられた。

- ・取組む行事が多く振り返りの時間が十分でなかった。
- ・学年間の接続が十分ではない。
- ・「生きる力」や「身に付けさせたい力」をねらい通りに習得させる内容の工夫が必要である。
- ・社会人講話の回数の見直しが必要である。

そこで、Will Project 推進委員会では、これらの課題を踏まえ、次年度では「総合的な学習の時間」の内容や実施方法を改善することにした。改善は次の3つの視点を明確にし、それに基づいて行うことにした。

- ①学年の到達目標の再確認と実施内容を工夫する
- ②各学年の取組が次の学年での活動に生かせるように学年間の接続を工夫する
- ③1年次における社会人講話のあり方（実施回数）を見直す

3 「総合的な学習の時間」の内容について

各視点に基づいた来年度の「総合的な学習の時間」についての改善は次の通りである。

①について

「総合的な学習の時間」の各学年の実施内容の概要一覧を作成し、ねらいを明記して学年間の関連性を把握できるようにする。

1年次で自己理解や表現力の習得のためのプログラムを取り入れる。使用するワークシートも「何を」「何のために」行うのか、わかりやすいように工夫する。

2年次でのインターンシップの事前指導のプログラムに、現在の社会情勢で各企業の具体的な様子、企業の使命と果たす役割、および社会的責任などを学ぶ内容も加える。

3年次では1、2年生での活動を通し、夢の自己実現に向かい、完成度の高い志望理由書を書けるような工夫を考える。

②について

1年次のライフプラン、2年次の Will プラン、3年次の志望理由書でストーリー性のある自分の将来像を描けるようにする。また、1、2年次での取組が3年次での自発的な学習活動につながるように、各活動の配置を再検討する。

③について

社会人講話を精選し、その実施回数を減らす。その分振り返りの時間を確保し、また、自己理解や表現力を習得する時間も計画に入れる。

H22年度 総合的な学習の時間における実施内容 (案)

H22.2.24

	1 年	2 年	3 年			
各学年の テーマ	①調査・整理・表現する技法の習得 ②視野を広げつつ夢の具体化 ③実現に至る道筋を考える (ライフプラン) ④自己理解を深める	①思考・探究・表現する力の深化 ②資質と適性、社会での役割の理解 ③体験から学び志を高める ④プラン作成能力を育てる	①学ぶ目的の明確化 ②他者への論理的な説明力の習得 ③自立心と向上心の確立 ④意欲的・計画的な課題への挑戦			
4 月	スクールマナー集会 Will Project の説明会					
5 月	表現する技法の習得	インターンシップ事前指導	志望理由書作成			
6 月	自己理解を深める (ワークシートなどを活用した自己分析活動)			○資質と適性、社会での役割の理解	○目標達成プラン ○学ぶ目的の明確化 ○論理的説明力の習得	
7 月	職業研究 (自己理解を深めた後の自分を軸にした)			○企業理解をする探究活動		
8 月		オープンキャンパス インターンシップの事後指導 (発表会など)				
9 月	進路研究	志の実現に向けて	進路別学習			
10 月				○学問研究 ○学部学科研究 ○社会人講話 ○大学見学	○表現力を高める活動 (インターンシップの報告書作成、プレゼン) ○学問各分野の最前線の様子を知る (出前講座) ○志望理由作成に関する活動	○自立心と向上心の確立 ○意欲的・計画的な課題への挑戦
11 月				○大学研究		
12 月	ライフプラン作成	ウィルプラン作成				
冬休み				○作成指導 ○プラン作成 ○発表会	○作成指導 ○プラン作成 ○発表会	
1 月						
2 月						
3 月	合格体験講話 (推薦・AO、一般受験)					

教育方針

校訓

「至誠力行」 (昭和5年制定)

校是

「文武両道」

教育目標

- 己を抑え、清く正しく、真心をもった生活ができるようにする。(克己誠実)
- 強い進路目標を持ち、その達成に向かって、自ら求めて学習できるようにする。(自発学習)
- 心と体を鍛え、本校の名声を高めるために部活動に積極的に励むようにする。(部活精励)
- 世界に目を向け、国際社会で通用する教養や能力を身につけるようにする。(国際理解)

沿革・卒業生

沿革

- 大正14年4月 秋田県立能代中学校として創立
- 昭和23年4月 秋田県立能代南高等学校と改称
- 昭和28年4月 秋田県立能代高等学校と改称
- 昭和49年11月 高埜に新校舎落成、樽子山から移転
- 平成元年11月 雨天体育館完成
- 平成5年2月 前庭施工
- 平成7年9月 創立70周年記念式典を挙げる
- 平成15年4月 理数学科新設
- 平成16年4月 2学期制実施
- 平成17年9月 創立80周年記念式典を挙げる

卒業生 総数20,111名

県内外で各界の重鎮として活躍

生徒数

在籍生徒数690名

(平成21年4月7日現在)

学年	1年		2年		3年		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
普通科	132	95	101	97	102	92	376	314
理数科			19	17	22	13		
合計	227		234		229		690	

進学状況一覧

卒業年	平成21年		平成20年		平成19年		平成18年	
	合格	進学	合格	進学	合格	進学	合格	進学
国立大学	86	78	107	96	96	90	85	78
公立大学	21	19	26	19	24	21	21	17
管外大学	1	0	1	0	1	1	1	0
(国公管小計)	108	97	134	115	121	112	107	95
私立大学	174	79	211	83	224	84	247	99
4年制合計	282	176	345	198	345	196	354	194
国立短期大学	0	0	0	0	0	0	0	0
公立短期大学	4	3	3	2	5	3	3	2
管外短期大学	0	0	2	1	1	1	0	0
私立短期大学	9	6	7	2	21	16	9	5
(短大合計)	13	9	12	5	27	20	12	7
専修・各種	24	16	15	11	34	29	46	32
総計	319	204	372	214	406	245	412	233
卒業生総数	226		234		277		274	

校舎配置図

-
- ① サッカー練習場
 - ② 硬式野球場
 - ③ 軟式野球場
 - ④ 硬式観覧席
 - ⑤ 軟式部室
 - ⑥ 小屋
 - ⑦ ゴミステーション
 - ⑧ プール
 - ⑨ テニス部室
 - ⑩ テニスコート (4面)
 - ⑪ 雨天体育館
 - ⑫ 陸上競技場
 - ⑬ セミナーハウス
 - ⑭ 管理棟・特別教室棟
 - ⑮ 昇降口棟
 - ⑯ 普通教室棟
 - ⑰ 第二体育館
 - ⑱ 格技場
 - ⑲ 部室
 - ⑳ 第一体育館
 - ㉑ 駐車場
 - ㉒ 自転車置場

交通案内



所在地

〒016-0184 秋田県能代市字高埜2番地の1
電話 (0185) 54-2230(代)
FAX (0185) 54-2231